

協定企業名	高知工科大学、高知工科大学後援会
交流行事名	高知工科大学―物部川共生の森 2015
開催日時	平成27年10月31日(土) 9:00~15:00
開催場所	香美市物部町別役
主な参加者・人数	高知工科大学教職員8名、 物部森林組合4名、香美市3名、高知県1名 総勢16名
概要	間伐体験、ゆず選果場見学、物部森林ストックヤード見学
当日の様子	<p>秋晴れの下、協働の森交流イベント「高知工科大学―物部川共生の森 2015」が開催されました。</p> <p>大学からバスで約1時間30分、途中物部森林組合の車に乗り換えて作業道を10分程度移動し、香美市物部町別役の民有林を目指します。今年度は、20年生のヒノキの間伐作業です。</p> <p>まずは、森林組合の方から安全講習がありました。チェーンソーの構造や仕組み、持ち方や切るときの方向など、皆さん真剣に聞いていました。</p> <p>講習の後は、2班に分かれ、順にチェーンソー作業用防護ズボンをはいて、森林組合の方から指導を受けながら作業開始です。20年生のヒノキは、木によって成長の差が大きく、育ちの悪い木を選んで間伐していきます。まず、余分な枝などを伐り、身の回りの安全を確保してから、倒す方向を決めて、伐倒方向に受け口作りです。受け口の下切りと斜め切りの角度が合わず、少しずつ角度を調節しながら、なんとか受け口ができあがります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>受け口の後は、ツルを残すことを意識しながら追い口を作っていきます。追い口ができたら、後は幹を押し木を倒します。しかし、ヒノキは「かかり木」になりやすく、なかなか倒れてくれません。チルホールを使って慎重に倒していきますが、ハンドルを操作する作業は、地味ながらもなかなかの有酸素運動で、皆さん、息を切らしながら一生懸命作業されていました。作業の合間には、森林組合の方から、シカの被害の話をお聞きしました。この辺りもシカの被害は大きく、ヒノキの樹皮の食害が見られました。皆さん、間伐作業のたいへんさとともに、森林環境を守ることの難しさを感じられたのではないのでしょうか。</p>



伐り倒したヒノキは、チェーンソーで小さく輪切りにして、いい香りがするお土産のコースターのできあがりです。



ひとり2本ずつヒノキを伐り倒して、間伐作業は1時間半ほどで終了。作業道の入り口まで戻り、石立山を眺めながら昼食のお弁当をいただきました。

少し色づいた木もありましたが、紅葉の見ごろはもう少し先ようです。



昼食の後は、山を下り、JAとさかみのゆず集出荷施設の見学です。

物部産の青果ゆずは、「**物**（まるぶつ）」の通称で全国シェア第一位の出荷量を誇ります。いかに玉を綺麗に栽培するか、病虫害防除や剪定に気を配って生産されており、果汁ではなく青果のまま販売する上級指向です。集荷されたゆずは、ベテラン職員による人の目と機械で選別されて等級に分けられており、キズの数少ない綺麗なものが全体で1～2%しかないA等級として、主に築地市場に出荷されているということです。年間の売上額が5億円、そのうちの8割が冬至ゆずとして12月上旬頃に集中して出荷されているという説明がありました。



続いて、物部森林ストックヤードの見学です。

山で切り出されたスギ、ヒノキが、丸太になって市場に並んでいます。径級や色、皮厚、曲がりなどの基準に従って職員による人の目と機械で選別されて、90種類もの等級に分けられています。昨年度の売上高は4億2千万円ほどで、木材は価格変動が大きいこと、おおよそ製材への出荷が増えていること、バイオマスエネルギーの関係で小丸太が市場に出回りにくくなっていることなどのお話がありました。



以上で本日の交流活動は終了となり、ストックヤードで閉会式が行われました。物部森林組合からは木の万能台がお土産に贈られました。

高知工科大学の皆さん、今日は1日お疲れさまでした。

これからも物部川流域の森林環境保全にご協力ください。